

令和2年度 全国学力・学習状況調査の結果から

令和2年11月 日
岡谷市教育委員会

「全国学力・学習状況調査」は、文部科学省が今後の教育施策や教育活動の改善に役立てるために、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に毎年実施する調査です。本年度は4月16日に実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症にかかわるその後の状況及び学校教育への影響等を考慮し、中止となりました。使用する予定であった問題冊子等は、各自治体や学校の判断で有効に活用することができる旨を受け、岡谷市では、校長会及び学力向上推進委員会において活用の仕方を検討いたしました。全国学力・学習状況調査の各設問は、児童生徒が身につけた知識や技能を活用しながら思考・判断・表現していく過程を確かめることができる内容であり、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることができ、岡谷市では、児童生徒の学力向上に向けた取り組みの一つとして、対象学年の児童生徒が、問題冊子に取り組みました。

 調査内容

- ◎教科に関する調査(国語、算数・数学)
- ◎生活習慣や学習環境等に関する質問調査

 分析結果**【教科に関する調査】**

- ◇小学校の国語では、複数の資料から必要な内容を取り出して書くことが課題です。
 - ◇中学校の国語では、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える力が向上してきました。
 - ◇小学校の算数では、割合の単元が課題ですが、計算処理はできるようになってきました。
 - ◇中学校の数学では、関数の単元が課題ですが、計算処理はできるようになってきました。
- ※「割合」、「関数」、どちらの単元も、生活場面を想起した設問になると、正答率が下がります。

【質問紙調査】

- ◇「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目における肯定数値が、小学校は約65%、中学校は約50%です。自己調整力を高めるために、主体的な家庭学習が必要となります。
- ◇小学校、中学校ともに、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が増えてきています。一方で、それらのICT機器を勉強のために使っていると回答した児童生徒は少ないです。
- ◇小学校、中学校ともに、「友だちと話し合うとき、友だちの考えを受け止め、自分の考えをもつことができているか」や、「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるように工夫してノートに書いて理解するようにしていますか」の肯定数値が高くなっています。

 今後の取り組み**【学校では一層の授業改善を】**

- これからの多様化、情報化、国際化等の社会の中では、複数の情報から必要な内容を選び活用することや、日常社会の事象と関連させて問題を捉えていくことが大切になっていきます。岡谷の子どもたちは、授業における友との対話や、学習内容の振り返りを大切に捉えています。そのよさを一層伸ばしながら、日々の授業改善に努めます。

【家庭では励ましの言葉を】

- 家庭学習に取り組む時間が増えていきます。
- 家庭学習で、ドリル等の反復学習の他に、授業で残った疑問や問いについて調べたり考えたりする児童生徒が増えていきます。
- 家庭学習の内容を、自分で計画して行う児童生徒が増えていきます。

自己の学びを調整しながら取り組んでいる子どもたちのよさを励まし、日々のニュースや日常の出来事などについて、「私ならこう考えるけれど、あなたは…」と、見方や考え方を交流してみましょう。

この分析を、各校の教育活動と授業改善に活かしてまいります。